



## 感性のある人が習慣にしていること

校長 大井 敏彰

5月は蒸し暑い日と肌寒い日が交互に訪れ、体調管理が難しい時期でした。しかし、生徒は新しい学級や仲間に慣れ、昼休みには中庭でボール遊びをする元気な声が聞こえてきます。

### 【憩う～相手意識～】

さて、第1学年がとても興味深い取組をしています。総合的な学習の時間において、「憩う～相手意識～」と題して、「椅子」を題材に多角的な思考や多様性の理解を促す学びを展開しています。先日は、県立近代美術館の所員を講師としてお招きし、様々な椅子を観察し、それぞれ異なる色や形状の椅子に名前を付けるといったユニークな学習活動が行われました。



【5.21 総合的な学習の時間の様子】

生徒は、椅子をじっくりと観察した後、感じたままに名前を付けていました。その後、仲間が考えた名前がどの椅子を指しているのかを当てるクイズをしながら、相手の立場に立って物事を捉えることを学びました。

### 【感性のある人が大切にしている習慣】

授業を参観して、「椅子」の授業の意味を考える中、ある本に出会いました。『感性のある人が習慣にしていること』（SHOWKO著 クロスメディアパブリッシング）に「椅子」の授業の価値を裏付ける、とても興味深い内容が述べられていました。

情報があふれる現代で（中略）流行に敏感なことは決して悪いことではありません。でも、「自分らしい」生き方をしている人に心のどこかで憧れたりしていないでしょうか

「自分に似合うもの」「自分に向けられた気持ち」「自分だけの価値」「自分が好きになれるもの」これらすべては正解がないものです。この、目に見えない価値を感じ、正解のないことを選び抜ける力こそ「感性」です。

「感性」は習慣によって身に付けられるものです。

さらに読み進めると、「感性のある人」が大切にしている習慣について、次のように5つ紹介されていました。

- ①観察する習慣…日常の細部まで目を向け、これまで気付かなかったことに気付くための習慣で、身に付くと世界を見る解像度が高まり、隠れた意図や違和感などに気付けるようになる。
- ②整える習慣…身の回りや自分の心を整えるための習慣で、身に付くと観察から得た情報を冷静でフラットな頭で捉えられるようになる。
- ③視点を変える習慣…これまでと異なる面から事象を捉えて物事を解釈する習慣で、身に付くと常識にとらわれずに、本質的な発想ができるようになる。
- ④好奇心をもつ習慣…これまで気にかけていなかった物事に興味をもつための習慣で、身に付くと自分の「好き」の枠を広げ、新たな知識や教養を習得するための入口に立てるようになる。
- ⑤決める習慣…日常の細かいことにも自覚的に選択する意識をもつ習慣で、身に付くと自分の中に判断の軸ができ、決断が速くなり、その決定に自信が持てるようになる。

上記①～⑤を「椅子」の授業にあてはめてみると、『④これまで気にしなかったものに興味をもち、③さまざまな角度や視点から、①じっくりと観察し、②情報を整理して、⑤名前を決める授業』と説明することができます。このため、今回の授業は多角的な思考や多様性の理解を促すだけでなく、生徒の「感性」を養う学びとして理に適っているといえそうです。

### 【自分らしい生き方を大切にす素地】

「感性」は捉えどころがなく、抽象的なものですが、「椅子」の授業をとおして一つの視座を得られました。豊かな感性を養うには、日々の生活の中でデジタル社会だけではなく、アナログな現実社会に積極的に目を向けていく必要があります。四中生には5つの習慣を意識しながら感性を養い、自分らしい生き方を大切にできる素地を育ててほしいと思います。

5月16日、6・7・8組の特別支援教育支援員として、影山葉子先生が着任されました。

（1学期末までの月・金勤務）